

平成22年度第1回北海道立図書館協議会会議概要

日時：平成22年7月1日（木）14：00～16：00

会場：北海道立図書館 会議室

出席者：協議会委員9名、道立図書館職員12名

傍聴者：3名

議事

- 1 平成21年度業務実績について
- 2 平成22年度業務の取組について
- 3 公共施設評価の検討状況について
- 4 その他

会議概要（○～委員の発言 ・～道立図書館職員の発言）

- 1 平成21年度業務実績について
金山部長説明（資料：「業務実績報告書－平成21年度－」）
 - 2 平成22年度業務の取組について
鈴木部長説明（資料：「平成22年度業務の取組」他、広報資料）
- 業務実績報告書P10「12 職員の資質向上」のところで、この参加数は道立図書館職員の参加者数のことか。
- ・ そのとおり。道立図書館の職員がこの研修に参加したということ。
- 第51回北海道図書館大会に2名というのは少ないのではないか。
- ・ 2名は職員の資質向上を目的とした参加者数で、この他に10名程度の道立図書館職員が大会運営に携わっている。
- 少なくともこれだけは図書館を閉めても参加するくらいでよいのでは。
- 業務実績報告書P7「図書館の設置率」のところで、過疎地域自立促進特別措置法の改正により過疎債が使えるとあるが、具体的にご説明いただきたい。
- ・ ソフト事業では、移動図書館は使えると聞いている。日本図書館協会のメールマガジンでは、学校司書を配置するという事例が挙げられている。日本図書館協会では、これからだが、工夫・創造が求められるとしている。
 - ・ 従来は新築のみということだったけれども、今回は改築・改修も対象にするという形になった。さらにすでに過疎債を受けてきたところの図書館への転用も協議できることになっている。
 - ・ いままでの過疎債はハード事業が対象だったが、この4月に期限が切れて新たに6年間の時限で延長され、今の公共事業に対する問題点があり、やはり1つの施設を修繕しながら長く使う、新規事業をやればよいということにはならなくなってきているので、そういう時代背景を踏まえながら、先程話した改修事業もそうであるし、ソフト事業も今回改正になった過疎債対象事業の目玉とされている。あとは、図書館だけでなくいろんな分野があるので、担当しているところの知恵の出し合いで、どういうところを対象事例としていくかということの競争になってくると思う。これからいろいろなケースが

出てくると思うので、わかる範囲で、今後市町村等へ情報提供はしていきたい。

- 先程の研修会の参加者の関係であるが、例えば道立図書館の職員の方々、あるいは事務局としてさまざまな形で関連事業の運営等サポートしていることがあると思うので、参加しているのもあるが、大会運営の関わりについて、そういうことをやっているんだということも表に出すという方法もあると思う。単に職員の研修の参加だけでなく、道立図書館としてこういう事業に対して協力なり運営をしているということを報告書の中に入れてもいいのではないかと思う。
- 平成22年度の業務の取り組みの中で新聞のマイクロ化を進めているとあるが、マイクロ化が終了した原紙はどうするのか。
 - ・ 道立図書館の1つの課題として書庫の狭隘化の問題がある。過去はマイクロ化したものについては廃棄したのが大半で、基本的には北海道新聞の地方版を昨年までマイクロ化したが、それについてはマイクロ化した時点で廃棄した。
- 収捨つかないかも知れないが、お誕生日の新聞をあげるというのはいかがか。ただ捨ててしまうのであったら、資源ゴミにしかならないから、マイクロで保存するということを優先されるのであれば、道立図書館のPRも兼ねていかがか。
- 業務実績報告書P20「5 レファレンスサービス」について年々減ってきているが、増やしたいのか。P2の「Ⅲ 機構」でその業務をする方々（参考調査課）の仕事量が減っているのかとってしまう。
 - ・ 確かにレファレンス件数は減っており、今年度、参考調査課の職員は1減となっている。ただ公共図書館界の流れとして課題解決型レファレンスというのがあるので、その研修をする方向性にあることは確かである。
- 充実した内容を提供しているのかという意味で言えば、数字は数字で見えるが中身をもっとアピールした方がいい。
 - ・ 件数自体はなかなか増えないと思う。ただ、道立図書館としてはソフト的な支援、例えばレファレンス体験研修を行うなど、何よりも市町村の技術を上げるための研修会を実施しているので、ホームページを活用するなどいろいろな形で発信していく。
- いかにか正しい情報を提供できるかということか。数字だけをみると、減っているのも、また人減らしになるような感じになる。
- 業務実績報告書について、例えば、P23（「2 資料の収集」）に表が並んでいる。1行2行でもいいから、何か傾向とかプラスになる事柄を情報として提供していただきたい。表を見るときに違った印象を受けると思うので、それが図書館で出す統計の意味だと思う。評価の部分だけを表現することで随分違った印象になると思うが、いかがか。
- 果たしてできるかどうかわからないが、北海道新聞で毎週日曜日に見開きでコラムのページがあるが、月1回くらい、例えば道立図書館のどなたかが道立図書館のPR、レファレンス、催しでも道立図書館のことならなんでもいい、そういう道立図書館コーナーというのを設けられないかと考えている。日曜日は、本に関心のある読者は毎週楽しみに見ており、それによって道立図書館と読者と対話ができるのではないか。読者にとっても図書館にとってもいいんじゃないか。検討課題にしていきたい。
 - ・ ご提案については、早急に内部で検討し、ご相談させていただく。

3 公共施設評価の検討状況について

榎本部長説明（資料：公共施設評価の検討状況について）

- 道立図書館での検討状況についてはよくわかった。以前と比べ、突っ込んで検討されている。道教委（生涯学習課）の考え方、取り組み方が4月以降、どういう形で進んでいるのか、説明いただきたい。
- ・ 道教委は、現在、平成21年度の施設評価のフォローアップの作業が進められている。9月に3定議会が控えており、そこに道としても方向性なりを出すと聞いているので、その前に8月中に道教委としての方向性を出すと、聞いている。
- ・ これまで、道教委（生涯学習課）とやりとりする中で、今報告した道立図書館の考え方について、道教委（生涯学習課）は、一定程度理解しているということで、理解いただきたい。
- 「道立図書館を考えるみんなの会」の会報を読むと、生涯学習課に方向性を出してほしいと聞いたところ、「効率の良いサービスを展開することが大事だと、みなさんの考え方もわかるが、効率の良いサービスについて考えていきたい」というようなことを言ったと聞いている。効率の良いサービスという言い方はどうにでも解釈できる言い方ではないか。それに比べると、道立図書館がこの検討状況できちっと打ち出した、この考え方を生涯学習課も受けて、そういうふうには認識すべきではないか。生涯学習課の考え方はイコール道立図書館の考え方だと思う。本来から言えば、現場の考え方を受けて、道教委として打ち出すのだから、道立図書館と全く別な考え方を生涯学習課として打ち出すとは考えられない。どうなるかわからないというのは一抹の不安がある。もしかしたら、ひっくり返されるのではないかという気持ちもある。
- ・ この問題に対する、道教委は図書館以外の施設も含めて全体的な評価、手続き的なこと、あるいは時間的なことを、どういう形で意思固めをして対外的なものとするか、スケジュール的なこともあるので、時間がかかってもどかしいということはわかるが、私どもとしてはこれまでみなさんから出た意見を一番最初に踏まえたし、書面の提出もあったし、それから最近の国会議論、道議会議論というものもあった。そういったものを総合的に判断し、今回、このように館としてまとめたので、生涯学習課も同じスタンスで考えてくれるのかということだが、私どもも一定の方向性を出した以上は、窓口である生涯学習課も同じ視点に立ってもらい、そういう方向性をしていってもらいたいという、基本的認識のもとにやりとりをしている。仮に我々の思いとは、根本的には違わないと思っているが、一部の部分で違いがあっても、議論する中でこういう方向性でいってほしいと、最大限努力していきたいと思っているので、ご理解いただきたい。
- まとめるプロセスは大変だったろうと思うが、これを逆に盾にできるわけだから、協議会もそうだが、これを盾にして前に進む、これをプラスに評価して、これでいこうという考えで私はいいと思う。
- これを私たちは全面的に支持していきたい。
- そういう意味で、ここまでまとめられたことを高く評価してもいいと思う。
- ・ 館長も私も4月に来て、図書館としての考え方をどう整理するかというのは大きなポイントだった。やはり指定管理という言葉が一人歩きしていたところがあると思う。図

書館というところに指定管理が妥当なのかということを引きつと整理しないと先へ進めないということで、今回こういうふうに整理して本庁とも現在やりとりをしている段階である。

- 確認をしたいが、「(2)管理部門への導入について」で「これを指定管理者とした場合の経費は、約48,000千円と試算される」とあるが、前のときには他の施設と一緒に230万円しか下がらないと言ったと思う。48,000千円増額になるという理由と、もう一つは「(3)民間開放可能業務について」で、貸出処理及び返却処理の一部について民間開放とあるが、これはどの程度の業務量の削減と試算されているのか。
 - ・ 指定管理を導入した場合というのは、一定の試算表があり、その表に当てはめていくという試算になる。道立図書館としてそれで何が減できるかといったら、その分の業務は人間で言ったらせいぜい1人分、あとこれまで委託していた分の予算を差し引いても、指定管理にした場合の方が3,500千円増加するという試算になる。これは本庁と確認をしている。図書館だけで試算しているということではない。もう一つのことは、効果が余らないということで、4月以降は検討していない。
 - ・ 委託を2施設合わせ入札で半分になるかとかかわからないということで、検討から外した。民間開放の拡大については、現在も民間に委託している部分もあるが、それ以外に、事務事業の点検ということでやっている。その作業はまだ確定したものではない。
 - ・ 協力貸出しの貸出返却処理業務の人工は1.2人工と計算している。
 - ・ 全部見直しをして、表に落として、0.何人工としてできるものはあるが、そのようなものを集め、できるのは協力貸出しの一部分で1.2人工であり、やるとしてもせいぜいここだろうと思っている。
 - ・ 司書の仕事というのは他の施設と比べて多岐にわたっているので、0.何人工とか細かいものがでてくる。実際、それを委託する、指定管理者に委ねるというのはできないというのが確認できた。岩手県ではTRCが入っている、岡山県では、開拓記念館も今年から導入したが、委託業務を一本にまとめてそれを指定管理者に委ねている。岡山県は指定管理者導入の前、委託の総計が7千万円台だったのが、導入後は6千万円台で約1千万円減っている。新しく大きなところだから、私どもは2,200万円規模だから、メリットが出てこないというのがはっきり出ている。先程、「指定管理者」という言葉の一人歩きとあったが、あえてこの検討状況の中で、指定管理者そのものがなじまない、国会での文科大臣の発言、衆参両院の決議とか、日図協の考えとか、そういったものを受けて、図書館としての考えを出したものである。
- 「(4)執行体制の見直し」のところでは現行3部8課の体制を見直すところがあるが、どういうことなのか。
 - ・ 具体的に最終案をもっているわけではないが、今の課の体制では3人の課というものもあるし、これをきっかけに道立図書館の役割について考えたときに、基本的な役割の1つに、市町村支援というのが普遍の部分であり、そしてレファレンスや子ども読書についても力をいれていかなければならないだろうという部分がある。それに見合った組織に変えるために、例えば、市町村支援課があるが、課員3人であることから、もっと効率の良い形にしなければならないだろうということと、課の体制をもう少し小さくくりまとめるような形にしたいという考えである。

- この問題が出てきたから、そういうものもあるという対処療法なのか。前から考えていたことか。
 - ・ 本来、不断に見直すということは必要だとは思うが、4月以降の話をすれば、これが大きなきっかけであることは事実である。
 - ・ 職員数の適正化計画では、職員数の削減が18%になっているが、市町村や道民にサービスの質を落とさないこと、かつ職員の仕事量が過度にならないよう留意し、組織を3人とか小さな課ではなく、もう少し機能的という観点に立ち、組織を改正していきたいと考えている。
- 組織を機能的にということだが、道立図書館が本来どうあるべきかを考えることなので、業務の見直しもしたということか。
 - ・ 県立図書館で、立地条件が県庁所在地にないのは全国で2つだけ。道立図書館は、他県のように直接貸出しに1日何千人も来るといったことがなく、昭和42年にここに来たときに、昔でいうところの二線図書館であり、道内市町村にあっては図書館の設置率も低く司書も正規でなくて委託やパートが多いという状況がある中で、市町村支援を行うことが道立図書館の一番のメイン、使命だということを確認したところ。また、議会の中で教育長も道立図書館の使命をはっきりと答弁しており、非常にいいきっかけだったのかなと思っている。
 - ・ 事業がどう変わるかというのは、市町村支援を強化するとかレファレンスとか、何ができるかというのは今館内で整理できると思うので、平成23年度の予算要求に向けてできることの整理を、現在、行っている。
- 道立図書館と他の部門との違いは、収益機関でないということ。また道立図書館には専門の人がずっとここにいてもらわないといけない。何でも同じようにすればよいというわけではないと思う。
- 公共施設評価は毎年出るものではなかったではないか。平成20年に出て、21年にも出たけれども、平成22年度の公共施設評価というのが図書館に出てくることはあるのか。
 - ・ 公共施設評価は当初3年に1回。今年度は21年の評価に対し取組状況とかどうするのかということフォローアップという形で行革の方で求められている。知事部局の行政改革課で取りまとめ、3定議会で報告する。今年度の施設評価はない。
- 結論が見えるのはいつ頃か。道立図書館としてこういう形を出している。私も後押ししたいけれども、地区の図書館協議会で意見書等を出すというのが背中を押す形になるのであれば、いつまでにそれを出し続ければいいのか。市民団体もいろいろ運動してくれているが、その終着点はいつなのか。結論が見えるまでに動かなければならないかなと思っているが。
 - ・ 結局、機構にしても予算にしても、最終的には年明けないと確定はしない。事業の展開などは9月から予算作業が始まることから、その前に既に手をつけ始めているが、どういった事業展開とするかとかで、生涯学習課と協議等を強力にやっている。
- 私どもも背中を押したいと思っているので、1月くらいまで動くというのは可能なのか。
 - ・ スケジュール的にいうと、今、これをうちから上げた。実際にフォローアップする中

で、道教委としての考えを総体的に整理して知事の方とやりとりしなければならぬ。最終的には8月一杯という形になるかと思う。

- それは表に出てくるのか。
 - ・ 9月の3定議会で報告をすることになるので、少なくともそこではオープンとなる。
 - ・ 今、考えている組織・機構の見直しは、年末から年明けという形になるかと思う。
- 市民団体の方が気にしているのは、公共施設評価について道立図書館の考えを踏まえて、どういう評価が戻ってくるのかということだと思うので、9月の3定ということであれば、公表されたときということですが、その前にちょっと違うなという方向になったとしたら、どんな3定評価が出るのかというのが1つの区切りだと思う。
 - ・ その通りだと思う。どのタイミングで出るのか、8月一杯はということになるかと思う。
- それまでは押し続ければいいということか。
 - ・ 今言えることはそれくらいだ。
- やるぞという話が出たので、この辺でこの話はよいか。
- それでは、もう一度、聞きたいということがあれば。
- 前に戻ってもよろしいですから、何かあれば。
- 夜間開館の見直しもあっていいと思う。
 - ・ 試行という形で7年が経過し、やっていることの一定の評価はあるので、続けるのかどうか整理しなければいけない時期だと思う。
- それは、やっていることのいい部分も悪い部分もある。いい部分があるから残さなければいけないということではなくて、優先順位というのがある。どうしても図書館の人間は広げるとそれを維持したいというのがある。そうではなくて、良くて優先順位があるからこれは落とすという決断が必要かなと思う。
 - ・ 試行というのは本格実施を視野に入れているというのがある。利用者が少ないというのはあるが、実際にやめたら何で止めたんだというのがあるので、そういうことも踏まえながら職員が減っていく中で、市町村支援も質の高いものにしていきたいということもあり、来年度に向けて決断していきたい。
- かるちゃんnetについて、具体的に道立の中でやっていることはあるか。
 - ・ 4月17日にイオン苗穂店で道立図書館のPR資料を持参し、ここに書いてある施設と一緒に掲示を行った。あとは、ここに書いてあるイベントをやるということが決まっている。
- とてもいいことだと思う。横のつながりを持つということは大事なことだと思う。それと同時に朝のNHKのラジオで、最近、開拓記念館の学芸員のコーナーがある。どういう形で選ばれたのかわからないけれども、例えば、月1回くらい道立図書館の時間をくださいというのもいいのではないかと思う。紙のチラシも非常に効果はある。朝のラジオというのは、そういう意味での効果はあると思う。

4 その他

(1) ボランティアの活動について

鈴木部長説明（資料：北海道立図書館ボランティア活動状況）

(2) 北海道図書館大会について

金山部長説明（資料：大会要項案）

(3) 協議会の改選について

榎本部長説明

小杉委員・五十嵐委員（公募による委員）から挨拶

- 公募委員として2年間出席いたしました、今日で終わりと言うことで挨拶したいと思います。大変貴重な、面白い会議だったと思います。道立図書館の指定管理者の問題が気になりますが。あっという間に過ぎた2年間でしたが、ありがとうございました。
- 私は、道立図書館のことはほとんど知らなかったということがわかりました。以前江別に住んでいたのですが、道立図書館があることは知っていても、どんな役割を果たしているのかは、詳しくはわかりませんでした。おそらく、多くの方がそうだと思います。
道立図書館が、私たちの知的な部分を担っているのだということがわかるように、何らかの形でアピールをしていったらいいと思いました。今回、指定管理者の問題が出てきたことで、あらためて道立図書館について考え、その役割を再認識した人がたくさんいます。委員になって、とてもよかったと思っています。